

令和2年度

# 黒崎小学校 「学力向上実行プラン」

## 学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- ① 基礎的・基本的内容を確実に理解させる授業の実践
- ② 児童の伝え合う力を高める授業の実践

### 【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会をとらえ、取組状況の把握を行う。

### ◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

#### (1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 与えられたことはしなければならないと考える児童が多い。</li> <li>○ 漢字・計算テストなどに進んで取り組む。</li> <li>● 学習の理解や定着に時間を要する児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漢字・計算テストで基礎学力を身につける。</li> <li>・ 学習の前提である学習の準備も、チェックシートを確認しながら主体的にできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校生活における基本のルール作りを全教員で共通理解し、全校体制で取り組む。</li> <li>・ 児童が興味をもって学習に取り組めるように発問を工夫する。</li> <li>・ 学習の準備ができていないかを振り返らせるチェックシートを利用する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習の準備ができていないかを振り返らせるチェックシートを全学年で活用し、学校生活における基本のルールを全教員で共通理解したことにより、全校で落ち着いた学習に取り組むことができている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学校生活における基本のルール作りを全教員で共通理解し、全校体制で取り組んだことにより、全学年で落ち着いた学習することができた。また、全学年で、基礎学力を身につけるために小テストなどに取り組んだ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次年度も引き続き、落ち着いた学習できるように全校で取り組みたい。また、基礎学力を身につけるための漢字・計算テストも引き続き実施していきたい。</li> </ul>

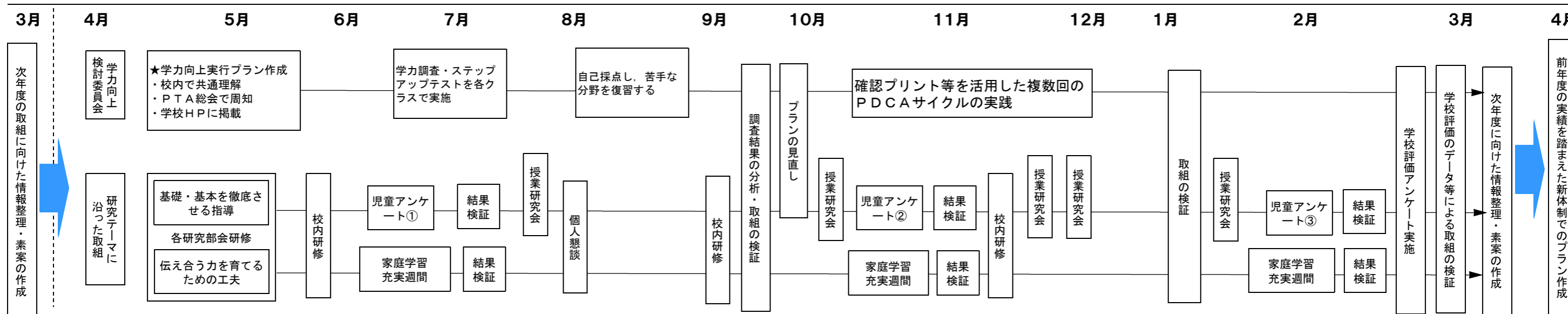
#### (2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 進んで課題の解決法を考えようとする児童が多い。</li> <li>● 人と異なる意見が言いづらいなど伝え合う力に課題がある。</li> <li>● 文章を読み解く力・知識を活用する力が不足している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分の考えを持ち、それを相手に分かるように伝えることができる。</li> <li>・ 自分の伝え合う力(聞く力・話す力・自分の考えを明確にして発言したり記述したりする力)を振り返り、伸ばしていこうと努力する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 児童に「自分の考え」をしっかりと持たせた上で、ペア学習やグループ学習などの言語活動を積極的に取り入れる。</li> <li>・ 要点を聞き取る指導や日記指導などに積極的に取り組み、書く力を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 感染症拡大防止のため、ペア学習やグループ学習は控えているが、要点を聞き取る指導や日記指導などに積極的に取り組み、書く力を育てる取り組みは各学年で続けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 全国学力・学習状況調査やステップアップテストを実施したところ、活用問題や記述式の問題の正答率が低かったため、職員会で解決策を話し合い、活用力をつけるためのプリントを積極的に利用していくことにした。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次年度も引き続き、毎日の授業のなかで、自分の考えを明確にしてから発言したり記述したりする経験を積み重ねていくよう全校で取り組みたい。また、活用力をつけるためのプリントも引き続き活用していきたい。</li> </ul>

#### (3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 真面目に学習に取り組める児童が多い。</li> <li>○ 家庭学習の習慣が身についている児童が多い。</li> <li>● 個人差が大きく、難しい課題や自主学習に粘り強く取り組むことが苦手な児童がいる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 各教科の学習に主体的に取り組むことができる。</li> <li>・ 家庭でも進んで学習し、学年に応じた学習時間を確保する。</li> <li>・ すずんで本や新聞を読み、読書生活を豊かにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ノート指導を徹底し、毎時間「めあて」と「振り返り」を記述させる。</li> <li>・ 定期的に「家でもしっかり学習しよう週間」を設定し、家庭学習の達成状況を自覚させる。</li> <li>・ 課題(宿題)の出し方を工夫し、主体的に学習に取り組めるようにする。</li> <li>・ 読書数がかかるように読書カードを作り、多読賞で表彰する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 7月と12月に行った「家でもしっかり学習しよう週間」では、9割を超える児童が学年の目標時間以上、家庭学習に取り組むことができた。少数の児童が未達成のため、家庭と連携しながら指導を続けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2月の「家でもしっかり学習しよう週間」でも、9割を超える児童が学年の目標時間以上、家庭学習に取り組むことができた。読書に親しみ、多読賞で表彰される児童も増えてきている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「家でもしっかり学習しよう週間」は引き続き実施し、全児童の家庭学習習慣の確立をめざしたい。今後は、自主学習の内容にも目を向けるとともに、家庭での読書習慣の確立もめざしていきたい。</li> </ul>

## 令和2年度 学力向上ロードマップ



令和2年度

〇〇学校  
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- わかりやすい発問により、生徒の思考を深める授業の実践
- 認め合い、話し合い、学び合う授業の実践

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員 委員

校長



◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識・技能が身に付いていたり、与えられた課題にもまじめに取り組めたりできる生徒が多い。 ●長い文章を正確に読み取ったり、身に付けた知識等を関連付けたりすることに課題がある。	・学習の過程を通して習得した知識が、既習の知識と関連付けられ、他の学習の場面で活用することができる。 ・身に付けた個別の技能についても、他の学習や生活の場面において活用することができる。	・何が書かれているかを捉えさせるため、教科書にアンダーラインを入れさせる。 ・生徒の興味をもって学習に取り組むことができるように発問を工夫する。 ・他学年、他教科の教員が相互に授業参観を行う。	それぞれの教科における知識等の習得をより徹底させる。さらに、身に付けた知識等を用いて課題を解決させる学習活動の場を増やす。	・アンダーラインを入れさせることはできていたが、少し多く引きすぎた。 ・工夫した発問は多くの場面でできたが、その発問に対する反応を予想することが不十分なときがあった。 ・相互の授業参観を多く行うことができた。	身に付けた知識等を表現するために、「書く」活動の機会を多く取り入れる。身に付けた知識等を実際の場面で活用できるよう、主体的・対話的で深い学びのさらなる実現を推進する。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の考えを発表したり、友達の意見をしっかりと聞いたりすることができる生徒は多い。 ●課題に応じて、必要な情報等を取り入れたり、自分の考えをまとめたり、複数の考えから新しい考えを創造したりすることに課題がある。	・各授業における課題等に対して、話し合い活動等を通して、解決する方法を考えることができる。 ・習得、活用、探究の各場面において、適切な言語活動により表現することができる。	・ペア学習やグループ学習の機会を効果的に設定する。 ・ホワイトボードやICTを効果的に活用した発表や話し合い活動をさせる。 ・生徒の発言や発表の内容に応じ、「なぜ」、「どうして」などの更なる発問を行い、生徒の考えを深めさせる。	ペア学習やグループ学習の前に個人で考える時間をしっかりと確保する。また、生徒のつづやきを全体で共有し、課題の解決を図る機会を設定する。	・ペア学習やグループ学習の機会については適切に設定できた。 ・ホワイトボードを使用した話し合い活動は多くできたが、活用の場面での言語活動は不十分だった。 ・深い学びにつながる発問については、なかなか上手くはいけなかった。	ペア学習やグループ学習の方法、ホワイトボードの使用等では、学校や学年で統一できるところはするなど、より効果的な実践を行う。授業計画の改善を進め、生徒の活用する力のさらなる育成を図る。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○各授業へ一生懸命取り組むことができる。また、家庭学習にも主体的に取り組むことができる。 ●自分の考えを客観的に捉えたり、不得意な学習内容に対して、自分で計画を立てて克服することに課題がある。	・各教科の学習に主体的に取り組むことができる。 ・自分の学習の状況をしっかりと振り返り、自らの課題を解決できるよう計画を立て、実践することができる。	・「とくしま授業技術の基礎・基本」にある、ノート指導を徹底する。 ・何を・なぜ・どのように学ぶのが生徒に伝わるよう、授業のめあてを提示する。 ・振り返りの視点を生徒に示し、記述させる。	生徒のつまずきに対して自らの問題の解決の糸口に気づくような助言を与えたり、振り返りシートについて改善を行う。	・ノートについては、ほとんどの生徒が確実に取ることができていたが、自分の考えを書かせることができなかった。 ・授業のめあてをほぼ、提示できた。 ・振り返りはさせることができたが、記述については、不十分なときもあった。	各教科において育成を目指す資質・能力の育成を図る授業改善を進めると共に、授業のノートの取り方の更なる改善を図る。

令和2年度 学力向上ロードマップ

